別所小の窓

さいたま市立大宮別所小学校
令和６年度３月号　児童数７６１名
TEL　048-667-3633　FAX 048-667-8700

小学校～それは小さな社会～

校長　神田　朋恵

やっと山崎エマ監督のドキュメンタリー映画『小学校～それは小さな社会～』を観ることができました。「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、１２歳になる頃には、日本の子どもは“日本人”になっている」この言葉がずっと気になっていました。映画は2021年のコロナ禍、東京世田谷区の小学校を舞台に、主に１年生と６年生の児童と先生を追っています。

映画に賛否両論あることは承知の上で正直に申しますと、観終わって、「ああ、私はなんて素敵な仕事に就いているんだろう。」と心底思いました。一つ一つの子どもの成長、やりとり、失敗、達成感。教師の苦悩。それは何ら本校の現在（いま）と変わりありません。温かいものが、胸の奥からじんわり広がりました。

いよいよ３月。今年度のまとめの月です。

先月、第３回学校運営協議会が開かれ、学校評価を受けての今年度のまとめ（R６学校自己評価システムシート）、そして来年度の方向性（R7グランドデザイン、R7学校自己評価システムシート）を御審議いただきました。学校評価保護者アンケート「学校は一人ひとりの子どもを大切にした教育をしているか」は、本年度0.2%向上でしたが、89.3%と90%には及びませんでした。しかしながら、「学校は児童を理解し、よくやってくれている。もっと保護者に伝わるとよい。」という有難い御意見を始め、「安心な学校とは、先生や友達から褒められ、地域から認められること、個に応じた指導が適切に受けられること、学校が情報を適切に出すことではないか。」「学力をつけるには、達成感をもたせることにつきるのではないか。達成感をもたせれば、自己肯定感が上がり、楽しく自ら学んでいく。好きなことを伸ばしてあげたい。」「数字には表れない非認知能力が大切である。その子が幸せか。認めてもらえる、価値づけることが大切ではないか。」など、貴重な御意見を頂戴することができました。話が教職員の資質向上に及んだ時に出た「先生方に余裕があるかどうかが大切である」という御意見には耳が痛い思いがいたしました。

６年生141名と一人ひとり面談をしています。小学校で一番頑張ったことと将来の夢を主に聴いています。今、夢や将来なりたい職業が決まっていなくとも、○○という大人になりたい、というその人物像を的確に描いている児童が多くいます。これは、わずかでもこれまで培った経験と近くに理想のロールモデルがあるからではないでしょうか。子どもはよく見ています。

我々教職員も、「目の前の子どもの幸せ」、「子どもの将来の幸せ」を築くため、今年度残り１か月を駆け抜けます。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

結びに、学校だより本年度最終号の発行にあたり、卒業する６年生と各学年の過程を修了する１年生から５年生のお子様の新しい学年での御活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、この１年間の保護者並びに地域の皆様の本校教育活動への御理解と御支援に深く感謝申し上げます。

学校だより、学年だよりは最終号となります。新年度４月号は４月８日（火）発行予定です。